

# 夫の夫婦関係満足度の規定要因に関する分析

京都大学 永瀬 圭

## 1 目的

本報告の目的は、妻の社会経済的地位が夫の夫婦関係満足度にどのような影響を及ぼすのか、そしてその影響は時代とともにどのように変化しているのかについて明らかにすることにある。夫の結婚生活や夫婦関係の満足度に関しては、夫婦各々の学歴、収入や価値意識といった様々な視点から研究がなされているが、夫婦の社会経済的地位の組み合わせに焦点を当てた研究は少ない。夫の方が妻よりある程度学歴が高い場合に最も結婚満足度が高くなることを指摘している研究があるが(Blood 1967=1978)、これは記述統計による分析である。本報告では、夫の夫婦関係満足度の規定要因について、多変量解析を行って検討する。

## 2 方法

そこで、データとして、日本家族社会学会全国家族調査委員会が行った第1～3回の「家族についての全国調査」を用いる。この調査の対象年齢は28～77歳(第3回調査は28～72歳)であるが(田中 2010)、本報告ではその中の28～47歳の男性のうち、離死別経験のない有配偶者を分析の対象とする。

夫婦関係全体の満足度を被説明変数、夫の教育年数、妻の教育年数、夫の年収、妻の年収、学歴の組み合わせ、夫婦の総年収に占める妻の年収の割合、結婚年数、ライフステージを説明変数として順序ロジット分析を行い、夫の満足度に対する①妻の学歴や年収の影響、②夫と比較した際の妻の学歴や年収の影響、の双方を検討し、さらにその影響の程度を1998年、2003年、2008年の3時点で比較する。

## 3 結果

分析の結果、現時点で得られている知見は次のとおりである。夫婦の学歴の組み合わせに関しては、夫の満足度に影響を及ぼさない。年収に関しては、2003年までは妻の年収が高くなると夫の満足度が低くなっているが、2008年になると妻の年収の影響は見られなくなる。しかし、夫婦の総年収に占める妻の年収の割合が高くなると夫の満足度が低くなるという点は、3時点で共通している。

## 文献

Blood, R.O., 1967, *Love Match and Arranged Marriage: A Tokyo-Detroit Comparison*, The Free Press. (=1978, 田村健二監訳『現代の結婚——日米の比較』培風館.)

田中重人, 2010, 「サンプリングとデータの基本特性」日本家族社会学会・全国家族調査委員会編『第3回家族についての全国調査(NFRJ08)第1次報告書』日本家族社会学会・全国家族調査委員会, 21-29.

## 謝辞

二次分析に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから「家族についての全国調査(第1回全国家族調査, NFRJ98), 1999」(日本家族社会学会全国家族調査委員会)、「家族についての全国調査(第2回全国家族調査, NFRJ03), 2004」(日本家族社会学会全国家族調査委員会)、「家族についての全国調査(第3回全国家族調査, NFRJ08), 2009」(日本家族社会学会全国家族調査委員会)の個票データの提供を受けました。